

高校生の制服に対する意識と 学校教育との関連性について (第2報)

Relationship between School Education and Senior High School
Students' Attitude toward School Uniforms (Part2)

福村 愛美
Manami Fukumura

1. 緒 言

前報では、高校生が制服に対してどのような意識を持っているかを明らかにした。今回は高校1年生と2年生の制服に対する意識の違いや、調査対象者が美術専攻と音楽専攻に分かれているので、専攻による意識の違いを明らかにした。高校生になったばかりの1年生と慣れて来た2年生では、考え方も変化すると思われる。また同じ芸術分野であっても、美術と音楽では全く性格の違う分野なので、専攻の違いでも考え方の差が表れると思われる。さらに制服が学校教育の中でも、家庭科教育や被服実習、家庭科男女共修などと、どのような関連性があるかを調査をもとに検討し考察した。

2. 方 法

調査対象、調査方法は、前報に示した通りである。調査内容は、制服について、家庭科について、被服実習について、家庭科男女必修についてである。分析方法は、高校1年生、2年生、美術専攻、音楽専攻の生徒に分けて各々単純集計し、制服に対する意識を明らかにする。次に制服についてと、家庭科や被服実習、家庭科男女必修とのクロス集計を行いカイ二乗(χ^2 値)及び \sqrt{ce} 値をもとに相互の関連性を明らかにする。

3. 結果と考察

1. 単純集計結果

図1～図4は、制服について高校生がどのような意識を持っているかを、1年生、2年生、美術専攻、音楽専攻に分けて、意識の違いを示した。図1は、高校に入る時学校を制服で選ぶかどうかについてであるが、高校1年生と高校2年生を比較すると、高校1年生のほうが制服で高校を決めていないと答えている。2年生の方が制服が気になると言うことは、1年生の時は高校に入った喜びのほうが大きくて制服のことまで気が回らないのかもしれないが、2年間近く制服を着用するとやはり制服が気になってくるのだと考えられる。美術専攻の生徒と、音

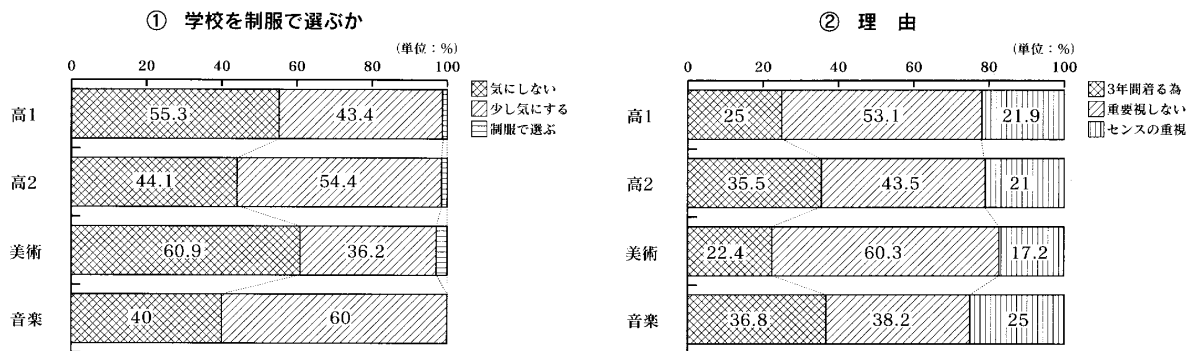


図1 学校を制服で選ぶかどうか

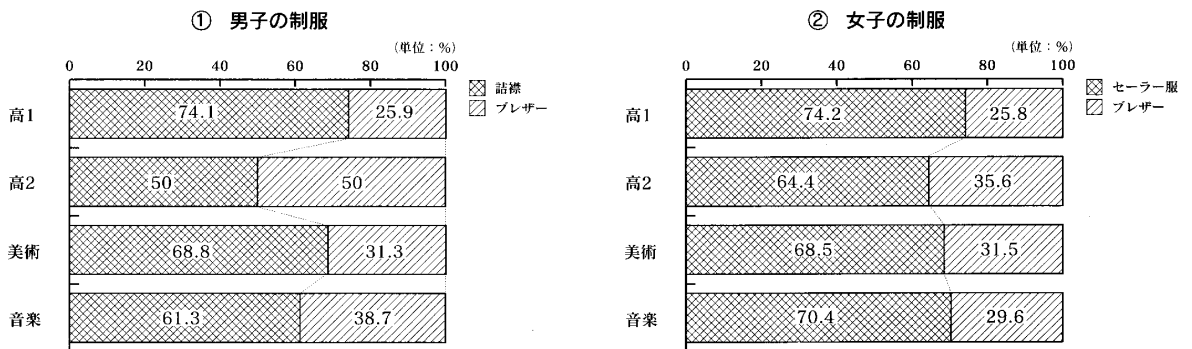


図2 好きな制服のデザイン

楽専攻の生徒を比較すると、美術の生徒は60.9%と気にしない生徒が大変多い。逆に音楽の生徒は60%の生徒が少し気にすると答えていて、音楽の生徒の方が、服装にこだわるといえる。高校一年生と美術専攻の生徒では、高校を制服で選ばないと答えた者が多いため、回答の理由も学校の価値は制服では決まらないからと答えた者が多い。制服が少し気になる高校2年生と音楽専攻は、3年間着る衣服だからという理由が、高校1年生や美術専攻よりも比率が高い。制服が気になるかどうかの違いは理由にも反映している。図2は、どの様なデザインの制服が好みであるかを示したものであるが、男子は高校1年生では詰襟の学生服を74.1%と多くの生徒が好んでいるが、2年生になると好みのデザインは、詰襟の学生服とブレザータイプの制服の半々に意見が別れている。中学生はほとんどが詰襟の学生服なので、高校2年にもなると飽きて来るのかもしれない。美術専攻と音楽専攻を比べると、美術専攻の方が詰襟の学生服をより多く好んでいる。これは図1と同様に高校1年生と美術専攻、2年生と音楽専攻の傾向が類似している。女子の方は全体的に余り差がなく、セーラー服を好んでいる。多少ではあるが高校1年生と2年生を比較すると、2年生の方がブレザータイプの制服を好む割合が増えている。

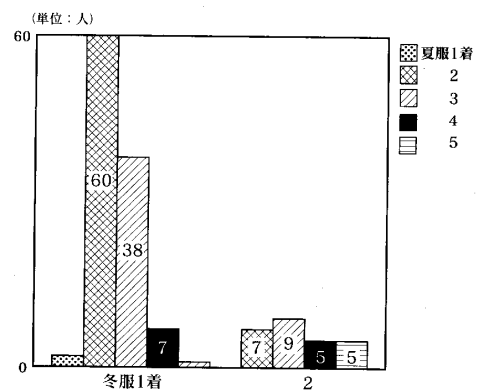


図3 制服を何着持っているか

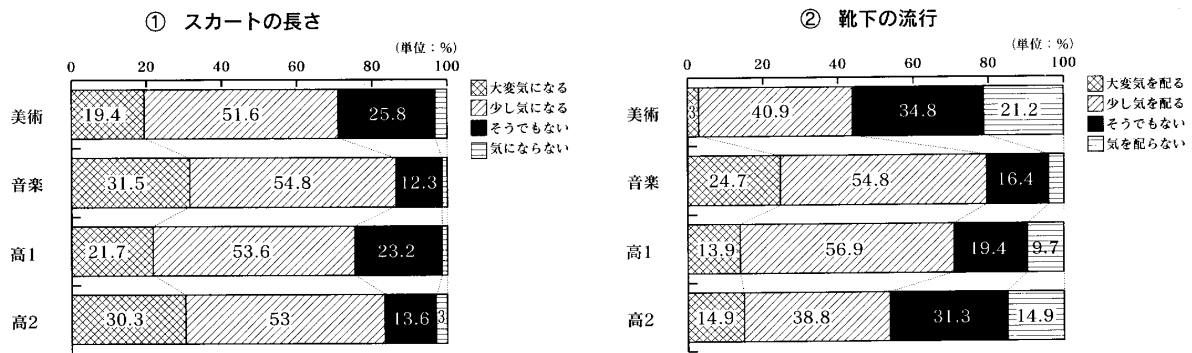


図4 制服の流行が気になるかどうか

図3は、制服を何着持っているかについて示したものであるが、冬用の制服を1枚、夏用の制服2枚持っている場合が60人と1番多く、次に冬用1枚、夏用3枚が38人と多い。やはり冬は、比較的着替えの制服がなくても済むが、夏は着替えの制服が必要なため、2枚以上持っている生徒が圧倒的に多いといえる。図4の①は制服のスカートの長さが気になるかどうかを示したものであるが、音楽専攻の生徒と高校2年生が特にスカートの長さを気にしている。②は靴下の流行に気を配るかどうかを示したものであるが、これは音楽専攻が特に気を配ると答えている。1年生と2年生では靴下に関しては、1年生の方が気を配ると答えている。全体的には音楽専攻が1番服装に気を配っていて、1年生と2年生では2年生の方が服装を気にしている。美術専攻はあまり服装にはかまわないといえる。

2. クロス集計結果

制服と、家庭科や被服実習や家庭科男女必修などの関連性を図5～図12に示した。図5は家庭科の授業で興味がある分野と、制服の良いところとのクロス集計結果を示したものであるが、家庭科のどの分野に興味があっても、制服の良いところとして学校の象徴として誇りが持てると答えた者が3分の1程度を占める。次に学生らしさが制服の良いところとして多いが、衣生活分野に興味がある者は、他の分野に興味がある者より少ない。図6は家庭科で男子にも学んでほしいと思う分野と、制服の良くないところとのクロス集計結果を示したものであるが、食生活と母性と保育を学んでほしいと答えた者の傾向が似ていて、制服の良くないところとして温度調節がしにくいから良くないと3分の1程度が考えている。また衣生活と住生活を男子にも学んでほしいと答えた者の傾向も類似している。全体的には制服の良くないところとしては、温度調節がしにくいだけでなく、個性がないとか、替えが少ない、長く着れないなど様々な要素があるという結果となった。図7の①は、被服製作で作品を完成したときに充実感を感じるかどうかと、制服の良いところとのクロス集計結果を示したものであるが、充実感が大変ある者とややある者の傾向はよく似ているが、あまり充実感を感じない

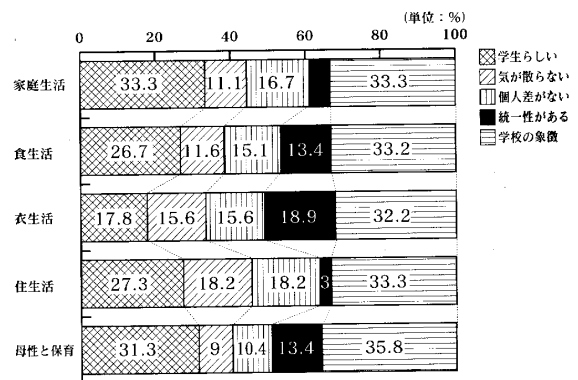


図5 家庭科の授業で興味がある分野と制服の良いところのクロス集計結果

図6は家庭科で男子にも学んでほしいと思う分野と、制服の良くないところとのクロス集計結果を示したものであるが、食生活と母性と保育を学んでほしいと答えた者の傾向が似ていて、制服の良くないところとして温度調節がしにくいから良くないと3分の1程度が考えている。また衣生活と住生活を男子にも学んでほしいと答えた者の傾向も類似している。全体的には制服の良くないところとしては、温度調節がしにくいだけでなく、個性がないとか、替えが少ない、長く着れないなど様々な要素があるという結果となった。図7の①は、被服製作で作品を完成したときに充実感を感じるかどうかと、制服の良いところとのクロス集計結果を示したものであるが、充実感が大変ある者とややある者の傾向はよく似ているが、あまり充実感を感じない

者は、制服の良いところは学生らしいと個人差がないという理由に偏った。②の制服の良くないところとのクロス集計結果では、被服製作の完成時の充実感を感じない者ほど、制服の良くない所として温度調節がしにくいと言う理由を多く挙げている。図8は、中学校の時の制服をどうしたかと、被服実習で製作した作品を活用したかどうかとのクロス集計結果であるが、中学校の時着用した制服をどのように処分した人でも、被服実習で製作した作品をほぼ半数の人が活用したと答えている。被服製作の作品をまったく活用しなかったと回答した人が一番少なかったのは、中学校の制服を人にあげた人である。中学校の制服を自分で使用しなくても捨てずに人にあげる人は、被服製作の作品も無駄にしないと思われる。また、捨てたと答えた人は他の人に比べて、被服製作の作品も活用しなかったと答えている人が39.1%と多い。やはり、有効利用しようという意識が低いと考えられる。

図9は、男子も家庭科を学ぶべきかどうかと、現在着用している制服を気に入っているかどうかのクロス集計結果を示したものであるが、①の冬用の制服の場合は、家庭科を男子も学ぶべきかどうかにかかわらず、現在着用している制服を3分の2程度の者が好みであると答えている。しかし②の夏用制服になると好みであると答える生徒が減り、特に家庭科を男子も学ぶべきだと思えない生徒が、夏用の制服を気に入らないと答えている。制服を気に入っているかどうかの理由として、冬用の制服の場合は、デザインが好きという理由が大変多いが、家庭科を男子も学ぶべきであると余り考えない者のほうが69%とより多くこの理由を挙げている。次に毎日の服を考えなくて良いから煩わしくないという理由が多いが、これは男子も学ぶべきであると考えている方が比率が高い。夏用の制服の場合の理由としては、制服を気に入っているという比率が冬用の制服に比べると余り高くなかつ

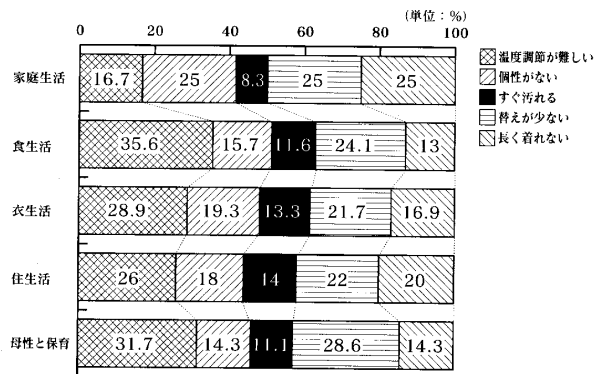


図6 家庭科で男子にも学んでほしい分野と制服の良くないところとのクロス集計結果

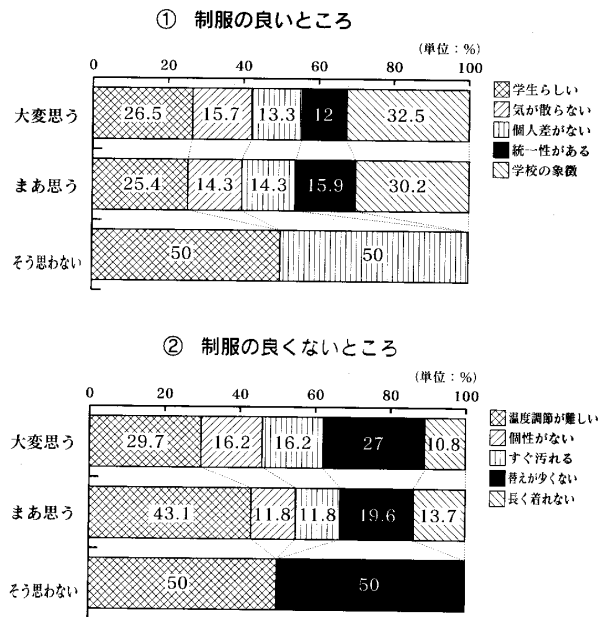


図7 被服製作を完成した時の充実感と制服の良いところや良くないところとのクロス集計結果

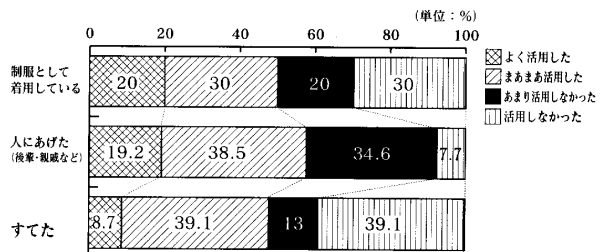


図8 中学校の時の制服をどうしたかと被服実習で製作した作品を活用したかどうかとのクロス集計結果

高校生の制服に対する意識と学校教育との関連性について（第2報）

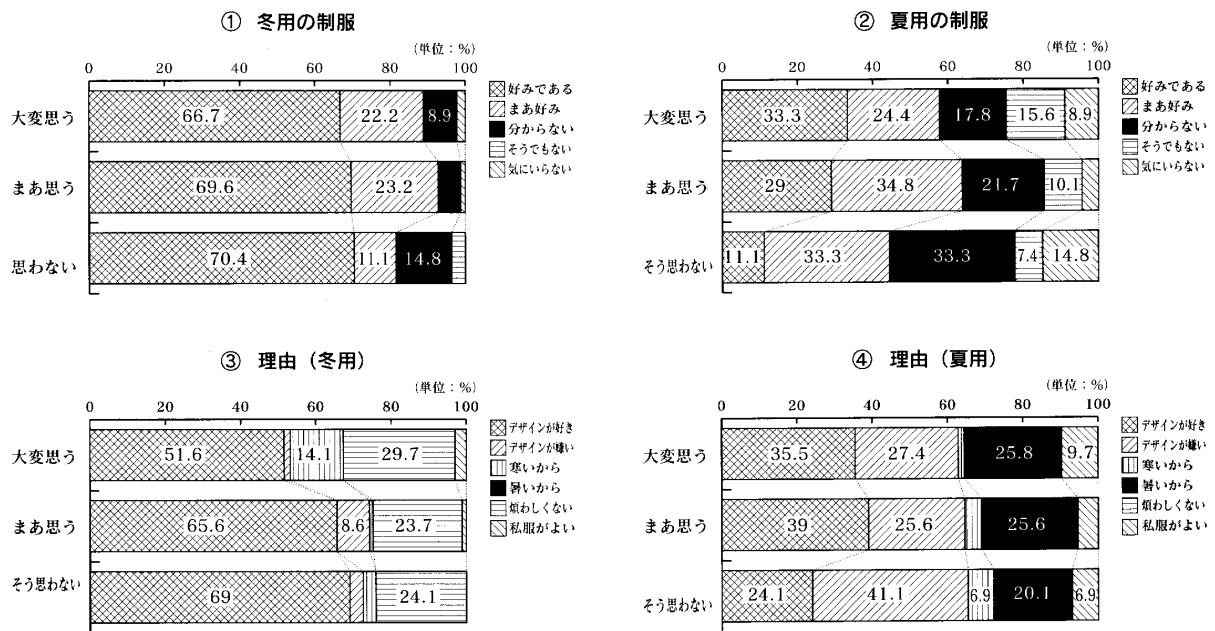


図9 男子も家庭科を学ぶべきかと現在の制服を気に入っているかとのクロス集計結果

た事を反映して理由もデザインが好きという理由と、嫌いという理由が同程度表れた。特に男子も家庭科を学ぶべきだと余り思わない生徒が、デザインが嫌いという理由を41.4%も挙げている。図10の①は、高校家庭科の男女共修が価値があるかと、制服の良いところとのクロス集計結果であるが、家庭科男女共修に余り価値が無いと思う者は、制服は学校の象徴として誇りが持てるという回答を41.2%と多く選んでいる。男女共修に価値があると思う者の方が、制服は服装のことを考えずに勉学に打ち込めるので気が散らないと、価値がないと思う者より考えている。②の制服の良くないところとのクロス集計結果では、全体的に似た傾向であるが、男女共修に余り価値がないと考える者が、制服の良くないところとして、個性が無いという回答を26.3%と他の者より多く挙げている。図11の

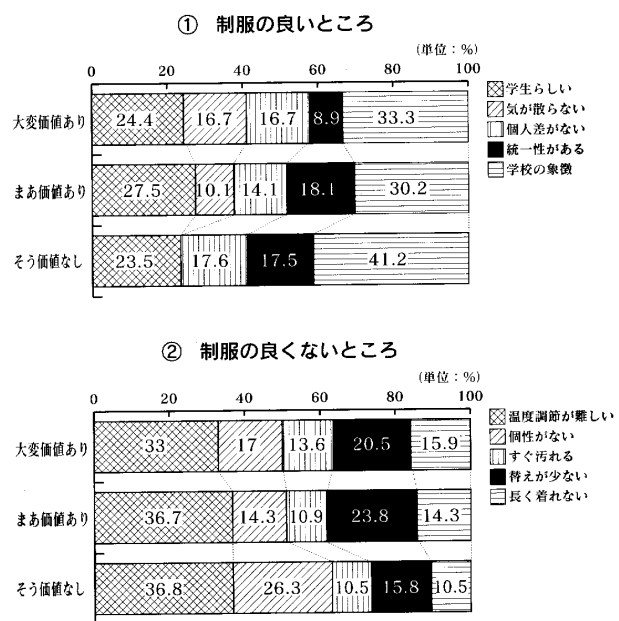


図10 家庭科男女共修が価値があるかどうかと制服の良いところや良くないところとのクロス集計結果

①は、家庭科男女共修に価値があるかと、高校に入るときに学校を制服で選ぶかどうかとのクロス集計結果であるが、家庭科男女共修に価値があると考える者ほど学校を制服で選ばないと答えている。その理由として男女共修に価値があると考える者は、学校の価値は制服では決まらないを55.9%と他の者より多く選んでいる。やはり理由を見ても、学校を制服で選ばないという意見を反映している。図12は、学校を制服で選ぶかどうかとその理由とのクロス集計結果

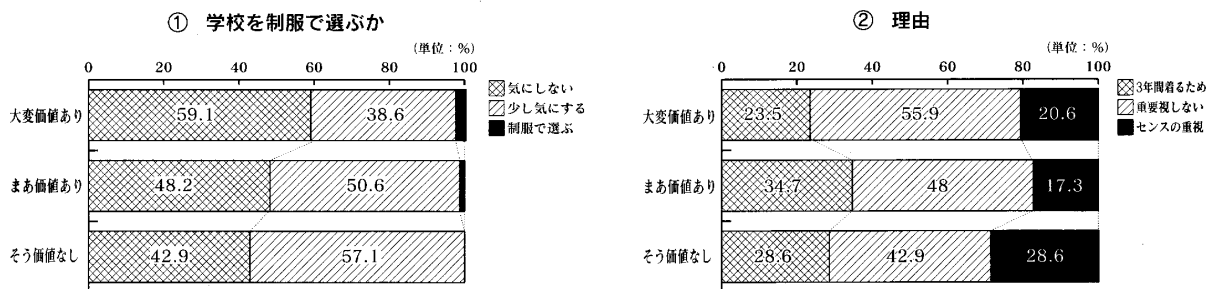


図11 家庭科男女共修と学校を制服で選ぶかとのクロス集計結果

であるが、制服などまったく気にしないと答えた人は、やはり理由としても学校の価値は制服ではきまらないと88.2%の人が考えている。制服を少し気にするという人は、58.1%の人が3年間着る服であるからという理由をあげている。逆に学校を制服で選ぶという人は、50%の人がセンスの悪い制服を着たくないからと答えている。図13は、制服のスカートの長さが気になるかと、学校を制服で選ぶかどうかの理由とのクロス集計結果であるが、スカートの長さが気にならない人程、学校の価値は制服ではきまらないと答えていて、スカートの長さが気になる人程、センスの悪い制服は着たくないという理由を挙げている。図14は、靴下の流行に気を配るかどうかと、制服のスカートの長さが気になるかとのクロス集計結果であるが、靴下の流行にとっても気を配る人程、スカートの長さもとても気になると68.4%の人が答えている。又、靴下の流行に全く気を配らない人程、スカートの長さがあまり気にならないと46.7%の人が答えている。これは、スカートの長さが気になる事と靴下の流行に気を配ることは、比例していると考えられる。図15は、私服にあこがれるかどうかと靴下の流行に気を配るかとのクロス集計結果であるが、私服にとってもあこがれると答えた人は、靴下の流行にもとても気を配ると答えた人が、私服にあこがれない人よりも多い。又、少しあこがれる人は、靴下についても少し気を配ると答えた人が

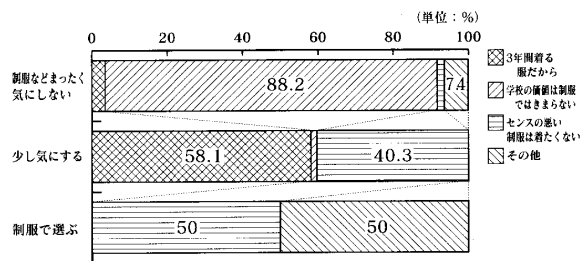


図12 学校を制服で選ぶかどうかとその理由とのクロス集計結果

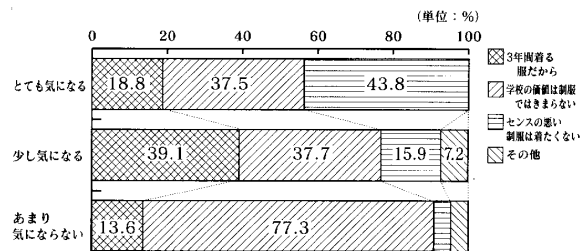


図13 制服のスカートの長さが気になるかと学校を制服で選ぶかどうかの理由とのクロス集計結果

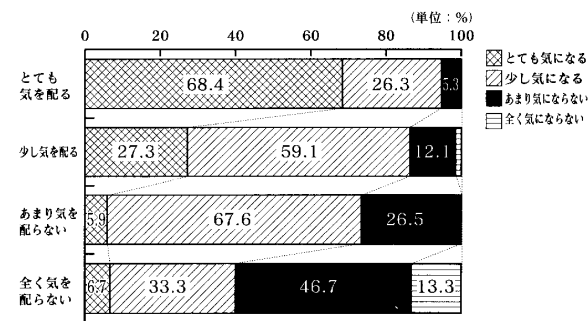


図14 靴下の流行に気を配るかと制服のスカートの長さが気になるかとのクロス集計結果

高校生の制服に対する意識と学校教育との関連性について（第2報）

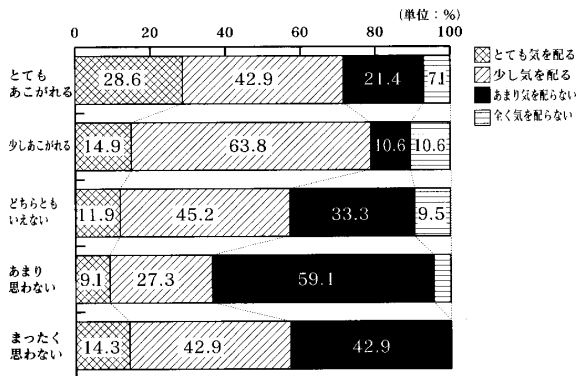


図15 私服にあこがれるかどうかと靴下の流行に気を配るかどうかのクロス集計結果

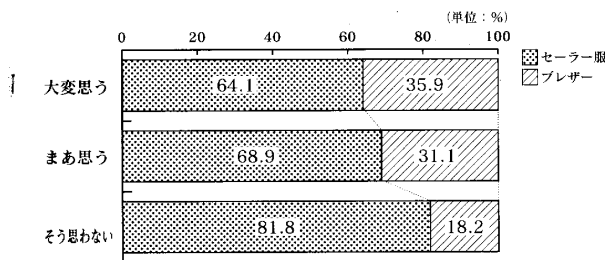


図16 家庭科を男子も学ぶべきであるかと好きな制服のデザインとのクロス集計結果

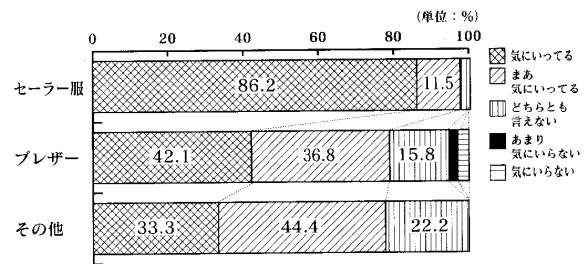


図17 好きな制服のデザインと実際に着用している制服(冬用)を気に入っているかどうかとのクロス集計結果

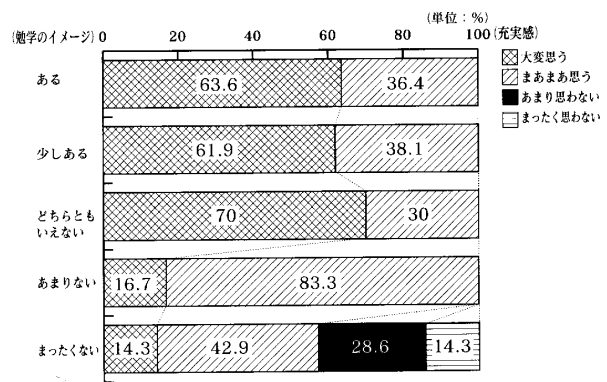


図18 制服についてのイメージで勉学のイメージと被服製作を完成した時の充実感とのクロス集計結果

63.8%と多い。靴下は制服を着用する場合、唯一自分の趣味が表現できる部分なので私服にあこがれる人の方が、靴下の流行に気を配ると考えられる。図16は家庭科を男子も学ぶべきかと、好きな制服のデザインとのクロス集計結果を示したものであるが、家庭科を男子も学ぶべきであると余り思わない者のほうが、セーラー服を81.8%とより多く好んでいる。逆に男子も学ぶべきだと思える者は、ブレザータイプの制服を他の者より好んでいる。全体的にはセーラー服に人気がある結果が出た。これは1報でも述べたが調査対象の高校生がセーラー服着用者なので、現在着用している服を気に入っていると言える。図17は、好きな制服のデザインと実際に着用している制服(冬用)を気に入っているかどうかとのクロス集計結果であるが、セーラー服タイプの制服のデザインが好きであると答えた人は、実際の制服を86.2%と多くの人が気に入っていると答えている。これは、アンケート調査の対象者がセーラー服着用の生徒だったためにこのような結果が出たと考えられる。ブレザータイプのデザインが好きであると答えた人でも、現在のセーラー服の制服を気に入っていると答えた人が多い。このように好みのデザインではなくても現在の制服が全体的に好まれていることがわかる。これは、制服が以外と支持されていると考えられる。図18は、制服のイメージについて、勉学のイメージと被服製作を完成した時の充実感とのクロス集計結果であるが、制服のイメージとして勉学のイメージがあると考えている人の方が、被服製作の充実感を感じている。図19は、制服のイメージについて、青春のイメージと若さのイメージとのクロス集計結果であるが、青春のイメージがある人程、若さのイメージがあると答えている。これは、青春と若さというイメージに共通する観念があるため

であると考えられる。図20は制服についてのイメージで、明るいという対照的なイメージのクロス集計結果を示したものであるが、明るいを選んだら当然暗くないと選ぶべきであるが、予想通りにはならなかった。明るいというイメージする者の内、暗いというイメージも18.8%の者が持っているという矛盾を含んでいる。これは制服のデザインや色に対する明るいイメージと、制服の拘束された暗いイメージを表しているのではないかと思われる。また明るくないというイメージを持っていても、暗くないというイメージを15.4%の者が持っている。明るさでわからないと答えた者が、暗さでも65.5%がわからないと回答した者は、制服に関して無関心であると思われる。このような矛盾は制服のイメージがひとつに定まらず、多面性を持っていることを象徴しているとも考えられる。

高校1年生と2年生、美術専攻と音楽専攻の生徒を比較すると、1年生と美術専攻の生徒の制服に対する意識と、また2年生と音楽専攻の生徒の意識の傾向が似ているといえる。つまり高校2年生と音楽専攻の生徒の方が、より制服が気になると考えている。そして制服と家庭科教育や被服実習との関連性については、図5～図11の分析結果から細部において関連性があるといえる。

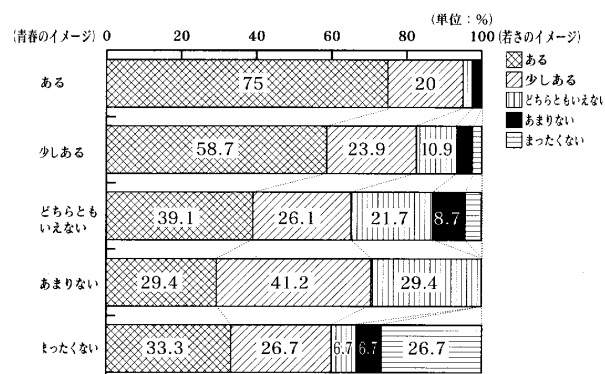


図19 制服についてのイメージで若さと青春のイメージとのクロス集計結果

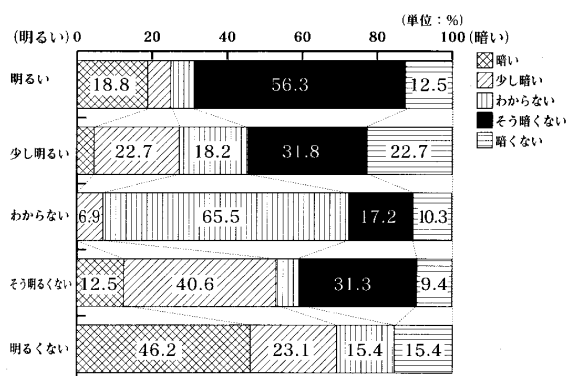


図20 制服についてのイメージで明るさと暗さのクロス集計結果

4. 要 約

高校生が制服についてどのような意識を持っているか、また制服と、家庭科及び被服実習、家庭科男女共修との関連性を調査をもとに分析した結果、次の様なことが明らかになった。

- 1、学校を制服で選ぶかどうかという質問に対して高校1年生と2年生では、1年生のほうが学校を制服で左右されないと考えている。
- 2、好きな制服のデザインでは、1年生男子は詰め襟の学生服を大半が支持しているが、2年生になるとブレザータイプの制服と半々に意見がわかれる。女子は全体的に差はなくセーラー服を好んでいる。
- 3、制服の持っている枚数は、冬用を1枚、夏用を2枚持っている組み合わせが1番多い。
- 4、音楽専攻の生徒が、スカートの長さや靴下の流行に最も敏感である。

- 5、被服制作の完成時に充実感を感じない者ほど、制服の良くないところとして、温度調節がしにくいという理由を挙げている。
- 6、家庭科男女共修に価値があると思う者ほど、学校を制服で選ばないと考えている。
- 7、家庭科を男子も学ぶべきであると余り考えない者の方が、セーラー服をより好んでいる。
- 8、制服のイメージは多面性を持っていると考えられる。

終わりに、集計作業にご協力いただいた大分県立芸術文化短期大学の田仲謙司さん及び学生や副手の方々に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 岡村喜美、武井洋子、田部井恵美子、家庭科教育法、学文社(1982)
- 2) 桶泉淑子、永井満里子、中川早苗、家政誌、41、361(1990)
- 3) 大矢愛美、研究紀要、大分県立芸術短期大学、29(1991)
- 4) 福村愛美、研究紀要、大分県立芸術文化短期大学、32(1994)